

傷寒論辨太陽病六： その4梔子豉湯他

基礎理論 § 発展

今回取り上げる処方では山梔子を君薬とする方剤群で
梔子豉湯、梔子甘草豉湯、梔子生姜豉湯、梔子厚朴湯、梔子乾姜湯
の5方剤

峯 尚志



① 梔子豉湯（しししとう）

原文（249条）

傷寒五六日、大下之後、身熱不去、心中結痛者、未欲解也。梔子豉湯主之。

読み下し文

傷寒五、六日にして、大下の後、身熱去らず、心中結痛する者は、未だ解せんと欲するに非ざるなり。梔子豉湯之を主る。

処方構成・分量

- ・ 梔子（洗）14個（9～12g程度）
- ・ 香豉 4升（12～15g程度）

処方の薬理的解説

- ・ 梔子豉湯は、大下（強力な下剤など）の誤治によって胸中に残った熱邪が内陷し、胸部に滞って「身熱」「心中結痛」といった病態を呈している状態を改善する。
- ・ 梔子が胸中の熱を清し、香豉が胃気を和し精神を安定させる。この組み合わせにより胸中の煩熱・焦躁感を効果的に鎮める。

臨床応用・使用目標

- ・ 解熱後、あるいは誤った下剤処方後に胸中が熱で塞がれて起こる胸の不快感、焦燥感、不眠などに広く用いられる。
- ・ 現代医学的には、自律神経失調症、心身症、胃神経症、不安障害、睡眠障害などの症状に適応される。



山梔子と香豉



梔子（サンシシ）

アカネ科クチナシの果実。

性味は苦寒。心・肺・胃・三焦經に帰經する。

清熱瀉火（体内に溜まった熱を除去）・除煩（胸中の煩悶感を改善）・利湿（湿を取り除く）・涼血（血熱を冷ます）作用がある。

心胸部に熱が鬱積し、胸中の煩悶感・焦燥感を引き起こしている病態に有効。

代表的な成分はゲニポシド（geniposide）などのイリドイド配糖体で、抗炎症・鎮静・肝保護作用が報告される。



香豉（コウシ）

大豆を蒸して発酵させたもの。『傷寒論』では淡豆豉と同義。

性味は辛・苦・微温。肺・胃經に帰經する。

発汗解表（表邪を発散）・和胃健脾（胃腸機能を整える）・除煩安神（不安感・焦躁感を緩和）作用を持つ。

胸中煩悶・焦躁・不眠など、精神的な不安定症状を改善する目的で使用される。

発酵過程で生成される微量のアミノ酸やGABA（γ-アミノ酪酸）に鎮静作用が期待される。

② 梔子甘草豉湯（ししかんぞうしとう）

原文（250条）

傷寒、下後、心煩腹滿、臥起不安者、梔子甘草豉湯主之。

読み下し文

傷寒、下後にして、心煩し腹滿し、臥起安からざる者は、梔子甘草豉湯之を主る。

1 処方構成・分量

- 梔子（洗）14個（9～12g程度）
- 香豉 4升（12～15g程度）
- 甘草 2両（6g程度）

2 甘草（カンゾウ）の特徴

- マメ科の植物の根や根茎。
- 性味は甘平（甘味・平性）。十二経すべてに帰経する万能薬的存在。
- 補中益気（胃腸機能を補い気力を充実）、緩急止痛（緊張を和らげ疼痛を止める）、調和薬性（他の薬剤の作用を調整）という特徴的な作用をもつ。
- 有効成分グリチルリチンは抗炎症、免疫調節、胃粘膜保護作用があり、副腎皮質ホルモン様作用（ステロイド様作用）が知られている。

処方の薬理解説

- 梔子甘草豉湯は、下剤投与後に陽明経の熱邪が胸腹に留まったまま、胃腸の機能低下を伴いながら、心身の不安や腹滿などが起こっている状態を改善するための処方である。
- 梔子・香豉で胸中の熱を清し焦燥を鎮めるとともに、甘草を加えることで胃腸機能を和し、薬物間の作用を緩和・調整して患者の苦悶をさらに和らげる。

臨床応用・使用目標

- 特に消化管の不調（胃腸の膨満感、食欲不振、胃痛）と精神的な不安（焦燥感、不眠、臥起不安）を併せ持つ病態に使用。
- 胃炎や胃腸神経症、ストレス性胃腸障害、自律神経失調症に幅広く使われる。

③ 梔子生姜豉湯（しししょうきょうしとう）

原文（251条）

傷寒、下後、復煩、胸中窒者、梔子生姜豉湯主之。

読み下し文

傷寒、下後にして、復た煩し、胸中窒する者は、梔子生姜豉湯之を主る。

処方構成・分量

- ・ 梔子（洗）14個（約9～12g）
- ・ 香豉 4升（約12～15g）
- ・ 生姜 5両（約15g）



生姜（ショウキョウ）の特徴

ショウガ科の根茎。新鮮な生姜。

性味は辛温、肺・脾・胃經に歸經。

発汗解表（外邪を発散）、温中止嘔（胃腸を温め吐き気を止める）、化痰行氣（痰飲を去り気の滞りを改善）作用をもつ。

処方の薬理的解説

- ・ 梔子生姜豉湯は、下剤投与後に再び胸中の熱が鬱積し、煩躁感に加えて胸中がつかえるような圧迫感、閉塞感を感じる場合に使用される処方。
- ・ 梔子が胸中の熱を清熱し、香豉が胃気を和らげ不安を除き、生姜が胸中の気滞・痰湿を散じて胸のつかえ感や吐き気を緩和する。
- ・ 熱・痰・気の鬱滞という複合的な病態を改善する配合。

臨床応用・使用目標

- ・ 胸中の圧迫感・窒塞感、胃部の膨満感や吐き気を伴った焦燥症状に適応。
- ・ 現代医学では、胃食道逆流症（GERD）、ストレス性の胃腸障害、嘔気、不安神経症などで、胸部のつまり感を訴える症例に有効。



生姜の特徴的作用

胃気を下降させ、吐き気や胸の詰まり感（窒塞感）を改善する作用が特徴的。

ジンゲロール、ショウガオールなどの辛味成分が健胃・消化促進作用を発揮。

④ 梔子厚朴湯（ししこうぼくとう）

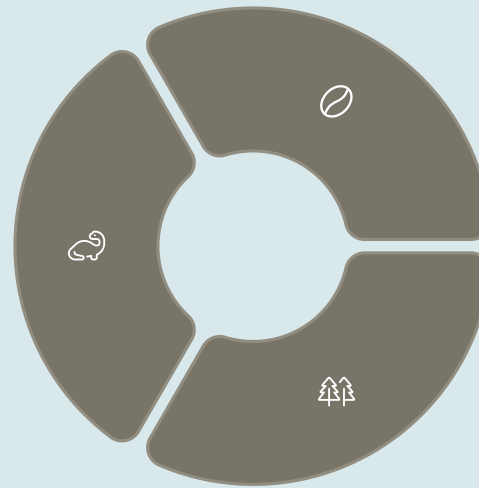
原文（252条）

傷寒、下後、復煩者、梔子厚朴湯主之。

読み下し文

傷寒、下後にして、復た煩する者は、梔子厚朴湯之を主る。

梔子（サンシシ）
胸中の熱を清熱・鎮静させ、焦躁感を緩和する。



香鼓（コウシ）

胸中の熱を清熱・鎮静させ、焦躁感を緩和する。

厚朴（コウボク）

モクレン科の樹皮。

性味は辛・苦・温。脾・胃・肺・大腸經に帰經する。

行氣消滿（氣滯を散じ腹部膨滿を除く）、燥湿化痰（湿邪を除き痰を消す）、降逆平喘（逆上した氣を降ろし喘息症状を鎮める）作用。

含有成分のマグノロール、ホノキオールなどは抗不安作用、抗炎症作用、胃腸機能調整作用を有する。

処方構成・分量

- 梔子（洗）14個（約9～12g）
- 香鼓 4升（約12～15g）
- 厚朴 4両（約12g）

処方の薬理的解説

- 梔子厚朴湯は、過度の瀉下後に胸腹部に熱と氣滯が残り、焦燥感や煩悶感、腹部膨滿感や息苦しさなどが起きている症状に対処する処方。
- 梔子が熱を清し焦躁を除き、香鼓が胃腸の機能を和らげ、厚朴が胸腹の氣滯を強力に解除して滿腹感・閉塞感・息苦しさを解消する。
- 氣機の流れを整えることで、精神的・身体的な不調を同時に解決する。

臨床応用・使用目標

- 胸中の熱感や焦躁感に加え、腹部膨滿感、呼吸の浅さや息苦しさを伴う不快感に使用。
- 現代では過敏性腸症候群（IBS）、慢性胃炎、胃腸神経症、自律神経失調症などに有効で、特に精神的緊張やストレスが強く氣滯症状を伴う症例に適している。

梔子生姜豉湯と梔子厚朴湯の比較



梔子生姜豉湯の特徴

胃氣が鬱滯した病態に、生姜で痰湿や気滯を解消する特徴があります。

胸部から胃腹部の症状に対し、生姜の作用で胃氣の降下を促します。

両者とも胸部から胃腹部の症状に対し、それぞれの気機の滞り方や病態の違いを明確にして処方を選択することが重要です。



梔子厚朴湯の特徴

厚朴により胸腹の気滯を強力に解除する特徴があります。

胸部から胃腹部の症状に対し、厚朴の行気消満作用で気機の流れを改善します。

⑤ 梔子乾姜湯（ししかんきょうとう）

原文（253条）

傷寒、下後、煩不得眠、梔子乾姜湯主之。

読み下し文

傷寒、下後にして、煩して眠るを得ざる者は、梔子乾姜湯之を主る。

処方構成・分量

- ・ 梔子（洗）14個（約9～12g）
- ・ 香豉 4升（約12～15g）
- ・ 乾姜 2両（約6g）



乾姜（カンキョウ）の特徴

由来：ショウガ科ショウガの根茎を蒸して乾燥させたもの。

性味・帰経：辛大熱、脾・胃・肺・心・腎経

効能：温中散寒（中焦を温め寒邪を除去）、回陽通脈（陽気を回復させ、脈の流れを促す）、温肺化飲（肺を温め、痰飲を除去）

薬理作用：主成分ショウガオールに胃腸機能促進、循環改善、鎮吐作用、鎮咳作用、身体を温める作用あり。

処方の薬理的解説

- ・ 梔子乾姜湯は、誤った瀉下治療（下剤投与）後に、体内で寒熱が交錯し、「煩躁感を伴う不眠」が生じた場合に適応される処方である。
- ・ 本処方は梔子・香豉という寒涼の薬物に、乾姜という温熱性の薬物を加えることによって、寒熱が交錯した複雑な病態を調和することを目的とする。
- ・ 胸中に存在する熱邪によって生じる焦躁感や不眠症状を梔子・香豉が鎮静しながら、一方で誤治によって生じた脾胃の虚寒を乾姜で温めるという、「寒熱錯雑」の調和に特化した処方となっている。

臨床応用・使用目標

- ・ 臨床的には、身体が冷えているにもかかわらず胸中に熱感が残存し、不眠や焦躁を訴える症状に特に適応する。
- ・ 現代医学的には、以下のような症状に応用される：
 - 神経性不眠症：精神的不安やストレスに伴う眠りの浅さ、特に冷えと熱感が同時に存在する場合。
 - 更年期障害：上半身の熱感やホットフラッシュと同時に冷え症状が下半身に認められ、不眠を伴う場合。
 - 自律神経失調症：寒熱混合タイプで焦燥感を伴った不眠や不安が存在する場合。
 - 消化機能低下：脾胃虚寒に伴う胃腸機能低下症状（胃の冷えや不快感、消化不良）を併せ持つ場合。

梔子湯類の使い分けのポイント

- 1 梔子豉湯（基本処方）**
胸中のうつ熱による焦躁・不眠。
- 2 梔子甘草豉湯**
胃腸の緊張が強く、腹満感と精神的緊張（甘草により緊張緩和）。
- 3 梔子生姜豉湯**
胸部窒塞感や嘔気、気滞・痰湿を伴う場合（生姜の気機降下）。
- 4 梔子厚朴湯**
腹部・胸部の明確な気滞・膨満感、精神的緊張感（厚朴による気滞の解除）。
- 5 梔子乾姜湯**
寒熱錯雑による不眠・焦躁（乾姜の温中散寒）。

各処方は梔子と香豉を基本としながら、追加される薬物によって治療対象となる病態が異なる。熱証の強さ、脾胃の働き、気滞の程度、寒証の有無などを考慮して生薬を加減することが重要である。